学校教育目標｜志を持ち，自ら考え行動できる児童生徒の育成　　重点目標｜聴いて考え，表現する子供の育成

評価計画					自己評価		学校関係者評価		改善計画
	重点目標		目標達成のための方策（取組指標）	成果指標	評価	結果（成果○と課題△）	評価	コメント	次年度における改善策
重点目標に関する評価	聴いて考え，表現する子供の育成	確かな学力	○拡大基礎タイムを４～６年に位置づけた習熟度別学習，及びTTによる低学年へのきめ細やかな指導の実施	・国語科の単元テスト **平均85以上**	4	○４，５，６年生での習熟度別少人数指導が定着し，拡大版の基礎タイムに対する児童の意欲も向上してきた。	A	・学校の評価は適切である。 ・学習レベルに応じた指導の成果が出ている。	・個別の見取りや目標設定を共通理解した上で，加配教師を活用し，１，２，３年生の個別指導の充実を図る。 ・拡大基礎タイムを継続していく。
				・算数科の単元テスト **平均80以上（低中） 平均75以上（高）**	4		A	・習熟度別を継続して，成果向上につなげていただきたい。	
			○聴いて考え，表現する子供の育成 ・「場のしかけ」「発問のしかけ」による「話す・聴く」活動を中心とした学習過程の位置付けと授業改善	・友達や先生の話を聴いて，自分の考えを捉え直すことができる。 **教育活動評価4段階評定尺度3以上**	2	△自力で自分の考えを捉え直すことは難しいため，友達の話を聞いた後，分かったことについて全体で確認等をする時間を確保する必要がある。 ○交流活動の授業への位置付けが定着した。	A	・学校の評価は適切である。 ・教師との対話，子供たち同士の対話を多く取り入れた授業で，子供が尊重されているのを感じた。	・考えの根拠が交流の観点となるように授業を仕組み，自分の考えの根拠を明確にさせた交流の充実を図る。 ・授業の導入を簡素化し，課題解決のための交流を必然性のあるものにする。
				・絵や図，文章などを使ってまとめた自分の考えを他者にわかりやすく伝えることができる。 **教育活動評価4段階評定尺度3以上**	3		A	・課題解決に向けた対応の検討，実施をお願いしたい。	
		豊かな心	○道徳教育，特別活動，人権・同和教育の充実 ・振り返りの場面での交流活動の設定 ・道徳ノートの活用 ・学級目標を目指した学級会の自主的運営 ・いいところ見つけの実施・定着 ・地域・校区の「ひと」「もの」「こと」との交流活動の充実	・自分のがんばったところを分かる（低）学習の中で自分の良さに気づく（中・高）ことができる。 **教育活動評価4段階評定尺度３以上**	3	○地域へ出かけたり，地域の方々と交流したりする学習活動が実施できるようになってきた。地域との関わりが深まることで，自己有用感を味わうことができる。 △学習中の交流活動の際，友達の意見の良かったところや参考になったところを考え，相手に伝える活動が必要である。	A	・学校の評価は適切である。 ・コロナ禍の中，様々な工夫をして，地域との交流が実施されていて良かった。 ・道徳の学習で学んだ価値を，次に実際の生活場面に落とし込む学習やソーシャルスキルを身に付ける機会が必要と思う。 ・教師の行動目標も成果指標に必要なのではないか。	・地域の方だけでなく，中学生（卒業生）とも連携した学習活動や学校行事を通して，地域への愛情や自己有用感の醸成を図る。 ・実際の生活場面や自分達及び学級の課題を計画的につないだ道徳の授業を仕組んでいく。 ・メルシーアーチやいいところ見つけの内容を，放送や掲示物でより多く児童へ発信する。
				・道徳の学習で，様々な登場人物の立場で道徳的価値を考える（低）登場人物に自分を置き換えて道徳的価値を考える（中）道徳的価値を支える様々な根拠を考える(高）ことができる。 **教育活動評価4段階評定尺度３以上**	3		A		
				・学級の一員として，自分の役割を果たす（低）集団の一員として，責任を果たす（中）集団の一員として自ら活動する（高）ことができる。 **教育活動評価4段階評定尺度３以上**	3	△今後，縦割り活動や異学年交流を実施・充実させていくことで，自分の役割の自覚や実践力を高めていく。	A	・異学年交流は良い取組だと思う。さらなる充実をお願いしたい。 ・友達のいいところを見つける取組で成果が出ているようだ。 ・自己理解や他者理解が深まるような工夫が学習の中や生活場面でたくさんしかけられているのを感じる。他者を通じていろいろな気づきをして欲しい。	・縦割り遊びやペア学年での学習活動や学校行事を，児童会や集会委員会を中心に充実させていくことで，高学年の自主的，実践的な態度の育成を図る。 ・学習の振り返りの観点に，友だちの発言の価値付けも設定し，他者との関わりを実感させる場を多くする。
				・友だちのいいところを見つける（低）友だちや学習のいいところを認める（中）友達や学級の良さ認める（高）ことができる。 **教育活動評価4段階評定尺度３以上**	3	○帰りの会等で，友達が頑張ったことや良かったことをたくさんほめ，友達のよさを見つけ合う活動が定着してきた。	A		
			○基本的生活習慣の定着 ・「挨拶・黙々掃除・名札着用・靴揃え」の取組	・進んで挨拶,返事をすることができる。 **教育活動評価4段階評定尺度３以上**	3	○児童の挨拶について，地域の方から評価していただくことが増えてきた。 ○あいさつ名人シールの取組（あいさつがよかった児童に，職員がシールを配付する）は，児童の意欲付けや，挨拶に継続的に取り組んでいる児童の可視化に効果があった。	A	・学校の評価は適切である。 ・子供たちの元気なあいさつに刺激を受け，思わず姿勢を正すこともある。「あいさつ運動」の取組の成果であると思う。 ・あいさつ名人シールは，良い取組だと思う。	・師弟同行を推進し，「黙って掃除」の徹底を図る。 ・トイレのスリッパのみならず，靴箱チェックや優秀学級への表彰等の取組を通して，履き物への意識付けを深めていく。 ・生活習慣の指導は，できて当たり前の風潮を感じることが多いため，できていることの可視化を図る。
				・毎日きちんと名札を着用することができる。 **教育活動評価4段階評定尺度3.5以上**	4		A		
				・黙って最後まで掃除をすることができる。 **教育活動評価4段階評定尺度３以上**	3		A		
				・トイレのスリッパや靴のかかとをそろえて並べることができる。 **教育活動評価4段階評定尺度3以上**	3		A		
		健やかな体	○健康，体力づくりの充実 ・おおむたっ子ストレッチ，サーキット運動，元気っ子タイム，外遊びの推進 ・給食後の歯磨きタイムの設定	・体力を向上させるために，自ら外遊びや運動ができる。 **教育活動評価4段階評定尺度3.5以上**	4	○ほとんどの児童に，休み時間の外遊びが習慣化している。 △食べる速度や量に関する個人差が大きく，時間内の完食に対しては，個別の指導で対応している。	A	・学校の評価は適切である。 ・食育等の指導は，個別対応する点もある。 ・給食の大事さを子供たちにもっとわかって欲しい。 ・外遊びの習慣化に安心した。	・小食の子供には，自分達で食べる量を決めて，時間内完食の達成感を味わわせる。 ・重点指導の学級等を設定し，栄養教諭による食の指導を積極的に活用する。
				・給食を時間内に食べ終わり，食後に進んで歯磨きができる。 **教育活動評価4段階評定尺度3.5以上**	3		A		
生徒指導の充実	いじめの早期発見・早期対応		○いじめ防止対策委員会の実施 ○いじめチェックリストや学校生活アンケートによる早期発見と教育相談	・学校生活アンケート「友達との関係」 **全学年1.3Ｐ以上(1.5Ｐ中)**	4	○学級遊びを全学級が定期的に行っており，児童同士の関わりが深まった。	A	・学校の評価は適切である。 ・ＳＳＷの配置型の強みは，予防的に，また，早期に動けることである。次年度も積極的に活用して欲しい。 ・子供の特性や強みを理解，尊重した対応を，職員全体で共有して行っていると感じる。	・保護者へのSC，SSWの活用に対する理解を深め，より多くの子供たちに面談等ができるよう，プリント等でSC，SSWの情報を発信したり，電話での依頼を継続したりしていく。 ・担任の目の届かない場所での交友関係のトラブルが多いため，担任も含めた学級遊びを推進していく。 ・ＰＴＡによる早寝・早起き・朝ご飯運動を継続していく。
	不登校の早期発見・早期対応		○不登校児童への組織的な対応 ・アクション３に基づいた対応 ・毎日の欠席状況等情報共有 ・学校生活アンケートの活用 ・SC，SC・SV，SSWとの連携	・学校生活アンケート「登校意欲」 **全学年1.2P以上(1.5Ｐ中)**	3	△児童の登校意欲を高めるためには，保護者の協力を積極的に促していく必要がある。	A		
				・不登校児童(30日以上欠席) **100%解消**	4	○学校に配置されているSC，SSWとの情報共有が密にできた。	A		
	配慮児童への対応		○ 特別支援教育の充実（対応の共有） ・毎月の児童理解についての会議実施と共通理解，組織的対応	・毎月１回の生徒指導・特別支援教育に関する児童理解会議の実施 **100%**	4	○配慮を要する児童は，複数の職員によるチームで対応している。	A		
働き方改革	意識改革と業務改善		○毎週の定時退校日の設定と学校閉庁時刻（２０時）までの退校 ○学年会を中心とした，計画的・組織的な業務の遂行	・超過勤務時間，昨年度比　**10%削減**	3	○年々超過勤務時間は減少している。職員の意識も高まり，データの共有等で作業の効率化が進みつつある。	A	・学校の評価は適切である。 ・子供に関わる大人側に余裕や余白がないと，子供たちの変化や発信に対応が遅れがちになる。余裕をもって向き合って欲しい。	・水曜の４校時下校によってできた時間の有効活用を，業務改善委員会でのボトムアップによる提案で，実行力をもった取組を行う。

自己評価　　４：目標達成（９０%以上）　　３：ほぼ達成（７０%～９０%）　　２：もう少し（６０%～７０%）　　１：できていない（６０%未満）

学校関係者評価　　Ａ：自己評価は適切である　　Ｂ：自己評価は上方修正すべきである　　Ｃ：自己評価は下方修正すべきである　　Ｄ：自己評価は不適切である